

## マーキュロクロム(メルブロミン)

### Mercurochrome (Merbromin)

#### 毒性 MLD:最小致死量

|        |              |
|--------|--------------|
| マウス-皮下 | MLD: 20mg/kg |
| ウサギ-静脈 | MLD: 15mg/kg |

#### 致死量

乳児の誤飲の場合 10mL でも危険である。成人での推定致死量(経口)は 1.5g(マーキュロクロム液 150mL)とされている。

#### 副作用

##### 広範な臍ヘルニアの新生児への局所治療

広範囲の臍ヘルニアに使用し治療 2 日目でピンク色尿、3 日目で脳浮腫、4 日目で進行性乏尿、3~5 日目で中枢神経症状を伴い死亡に至った。

##### 熱傷への局所治療

体表面の 50%熱傷の患者に使用し、治療 6 日目にピンク色尿、8 日目低体温に伴い錯乱状態と昏睡、10 日目に呼吸停止し、死亡。

##### 血液学的副作用

手術後の消毒に用い再生不良性貧血を起こした。

##### 皮膚炎

創傷の治療に用い、紅斑浮腫、発疹を起こした。

#### 中毒症状

消化管: 悪心、嘔吐、歯肉着色、流涎、粘膜びらん、吐血。

中枢神経: 頭痛、振戦、歩行障害、精神症状。

循環: ショック。

腎: 腎障害。

#### 治療

##### ■経口の場合

誤飲後は胃液による沈殿を生じるため吸収は遅延すると思われる。

##### 1) 希釈

ミルク、水を服用させ希釈する。

##### 2) 胃洗浄、活性炭、下剤

これらの治療をできるだけ早く行う。

胃洗浄: 大量の生理食塩水で胃洗浄を行う。服用後短時間内のものに有効である。意識レベルの低下しているものには気管内挿管により気道を確保したうえで行う。意識のある場合は側臥位をとらせ、吸引装置を用意し、肺への誤嚥を防止するようにする。洗浄液の 1 回注入量は 5 歳以上 150mL、5 歳以下 50~100mL とし、反復して胃洗浄を行う。

活性炭(粉末): 成人 30~100g、小児 15~30g(1~2g/kg)を胃洗浄のあと、生理食塩水または D-ソルビトールとともに胃管より投与する。

下剤: 硫酸マグネシウムまたは硫酸ナトリウム(成人 20~30g/回、小児 250mg/kg/回)、あるいは D-ソルビトール(35%)(成人 1~2g/kg/回、1 歳以上の小児 1~1.5g/kg/回)を活性炭が排泄されるまで 4~6 時間ごとに投与する。イレウスや腸雑音の聴取しえないものには禁忌であり、幼児には 2 回/日以上投与しない。下痢による体液喪失に注意する。硫酸マグネシウム過量投与による高マグネシウム血症の報告があるので注意する。

##### 3) キレート剤

D-ペニシラミン(メタルカプターゼ 100mg/cap):

600~1,400mg/日を 3~4 回に分割し経口投与する。短期間(3~10 日間)使用。無尿のときは禁忌。

**BAL(バル 100mg/A):**

中等症:1回投与量 2.5mg/kg を初日 6 時間ごと  
4 回/日筋注、2 日以降 1 日 1 回 6 日間筋注。  
重症:最初の 2 日間は 4 時間ごと(6 回/日)、3 日目は  
4 回/日、以後毎日 2 回、回復するまで筋注。

**チオプロニン(チオラ 50mg, 100mg/錠):**

1 回 100~200mg を 3 回/日経口投与する。

**4)集中治療(全身管理)**

とくにショックに対するチェックと治療を行う。

**5)抗コリン薬**

胃腸症状に対し抗コリン薬などを投与し、対症療法を行う。

**6) 血液透析**

腎不全, 重症例では血液透析を行う。

**使用上の注意**

**1)禁忌**

- (a)本剤又は他の水銀製剤に対し過敏症の既往歴のある患者
- (b)臍帯ヘルニアの小児[ショックを起こすおそれがある]
- (c)粘膜面[ショックを起こすおそれがある。]
- (d)口に触れる可能性のある部位(乳頭等)の消毒[ショックを起こすおそれがある]
- (e)長期・広範囲に使用しない[腎障害、骨髄抑制等の水銀中毒を起こすことがある]

**2)重要な基本的注意:** 使用量はできるだけ必要最小量にとどめる

**3)副作用:** 使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない

- (a)重大な副作用 ショック:  
まれにショックを起こすことがある。呼吸困難、血管浮腫(喉頭浮腫等)、じんま疹等のアナフィラキシー様症状を伴うことがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、中止するなど適切な処置を行う

(b)その他の副作用

|        |                     |
|--------|---------------------|
|        | 頻度不明                |
| 過敏症(注) | 発疹、じんま疹、そう痒、紅斑、小水疱等 |

(注)このような場合には、直ちに中止する

**4)適用上の注意**

- (a)外用にだけ使用する
- (b)眼に入らないように注意する。眼に入った場合には水でよく洗い流す
- (c)深い創傷に使用する場合は希釈液としては、注射用水か滅菌精製水を用い、水道水や精製水を用いない
- (d)希釈する水に、アルカリ土類金属塩、重金属塩、第二鉄塩、酸類、ヨウ素等が存在する場合、変化する可能性があるので注意する

**5)遮光保存**

**6)規制等:** マーキュロクロム(局)(劇)(指)、マーキュロクロム液(局)

**参考文献**

- 1) Schippan, R. & Wehran, H-J.: Beitrag Zur Konservativen Nabeishurbruch-Behandlung mit Mercurochrom. Z. Kinderchir. Grenzgeb., 6: 319,1968.
- 2) Weber, G.: Todliche intoxication nach Grobscher Drei-Phasen-Gerbung. Munch. Med. Wochenschr., 119: 1437,1977.
- 3) Slee, P. H. T. J., Den Ottolander, G. J., et al.: A case of mebromin(mercurochrome) intoxication possibly resulting in aplastic anemia. Acta Med. Scand., 205: 463,1979.
- 4) Camarasa, G.: Contact dermatitis from mercurochrome: Short communication. Contact Dermatitis, 2: 120,1976.
- 5) Kark, R. A. P., Poskanzer, D. C., et al.: Mercury poisoning and its treatment with N-acetyl-d, 1-penicillamine. New Eng. J. Med., 285: 10,1971.
- 6) Lillis, R., Miller, A., et al.: Acute mercury poisoning with severe chronic pulmonary manifestations. Chest, 88: 306,1985.